

国外伝道ニュース

2024.8

■IJCS・JBC パートナーシップ伝道(東京北教会)

シンガポール国際日本語教会(IJCS)と日本バプテスト連盟(JBC)は、覚書(2022.3)を交わし、『アジアでの和解の務めに仕え、キリストを共に証しする』という JBC と IJCS のアジア宣教のビジョンと使命を共有し、今後も協働していくことを確認しています。その働きとして、6月6日(木)~14日(金)IJCSからのパートナーシップ伝道チーム(シンガポール在住10名、日本在住2名)が、東京北キリスト教会で多文化共生を学ぶプログラムを持ちました。チームはその他にも、連盟事務所での交わり、IJCS・JBC 二者協議、日本に戻った元 IJCS 会員との「同窓会」や富士吉田教会訪問など、8日間をフルに精力的に活動され、シンガポールに帰って行かれました。日本語、英語、中国語が自在に飛び交う、にぎやかで楽しい出会いの余韻を私たちの心に残して…。今回の双方の参加者から、出会いと恵みの感想をご紹介します。(宣教室)



おもなスケジュール(6/8以降は東京北教会にて)
6/7 連盟事務所礼拝で賛美と証し、二者協議、女性連合訪問
6/8 シンガポールナイト(食事、文化紹介、交わり)
6/9 主日礼拝奉仕、合同分級(IJCS教会形成の紹介)
6/12 祈禱会、料理教室(食事と交わり)
他、IJCSメンバー関連訪問など

IJCS から▶▶▶▶▶▶

今回、私は初めてパートナーシップ伝道に参加しました。自分が個人的に一時帰国時に教会を訪れるのとは違い、教会活動として送り出されたことは大変学びの多い有意義な旅でした。

今回は、東京北教会の掲げる「多文化共生」を意識してのパートナーシップ伝道でしたが、日本人ならではの集団の体質や個人の考え方なども深く考える機会となり、外国生活を知る私たちのような日本人が訪れることの重要さも感じました。

東京北教会では、聖書の学びと互いの教会のことを祈りあう時間もいただき、新しい聖霊の風が今ここで吹いている、という気がしました。変わらない主を礎に、変わっていくことを恐れず、柔軟に諸教会のつながりを広げ、互いに刺激し合い協力するなどの新たな伝道の可能性を、連盟とともに模索していくことを今後期待します。

楽しい交わりを通し、互いに励ましあい、新たな想いやビジョンをたくさん頂いた豊かなパートナーシップ伝道でした。

全てを主に感謝して。

シンガポール国際日本語教会 勝浦美穂

東京北教会から▶▶▶▶▶▶

6月にIJCSをお迎えし、地域の方も参加できる楽しいプログラムを行ったり、共に礼拝した後はIJCSでの取り組みを分かち合ってもらったりと、大変祝された時間を過ごすことができました。

IJCSは駐在員家族なども多いことから、教会員の出入りが流動的であること、教会員であるかは問わず、奉仕したい人ができる範囲で奉仕できる形を積極的に取っていることを知りました。奉仕者が少ないなど問題がある中で、柔軟なマインドを持っていることは非常に大切であると感じました。また、海外の教会とパートナーシップを結んでいることで、日本の教会及び自らの教会とは異なるカタチや空気感を知ることができます。それは自分の教会の中にある「当たり前」を良い意味で崩し、違いを学ぶことで新しいアイデアを沢山得られる良い機会だと思いました。今の教会のニーズに合わせて「自分たちが変わっていくこと、変えられていくこと」は恵みになることを教わりました。

今回直接IJCSの方々にお会いし交わることができて、大変うれしかったです。これからも、お互いの教会と教会に集う人たちを覚えて、祈り合い励まし合っていきたいです。

東京北キリスト教会 石原光夏